

## 1 研究主題

# 「確かな学力」の育成を図る学習指導の在り方

～ICTを効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実～

## 2 主題設定について

人口減少や少子高齢化の進行、情報技術やグローバル化の進展などにより、人々の価値観やワークスタイルがこれまでと比べ大きく変わり、従来の知識や経験だけでは解を見いだすことが難しい時代となった。そのため、学校教育においては、こうした変化の激しい時代にあっても、子どもたちが、未来において様々な困難を乗り越え、豊かな人生を切り拓いていくために、自らの良さや可能性を認識するとともに、全ての人を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら持続可能な社会の創り手として成長していくために必要な資質・能力を育むことが求められている。

こうした中、文部科学省においては、「教育振興基本計画第4期（令和5年度～令和9年）」を定め、めまぐるしく変化する社会で、一人一人が社会の担い手となること、そして社会全体のウェルビーイングの向上を目指して5つの方針と16の目標を示し、その第1として、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」「学修者本位の教育の推進」等を基本施策とする目標を提示した。

また、北海道教育委員会においては、「北海道教育推進計画（2023年度～2027年度）」を策定し、「自立」と「共生」の理念の下、SDGs・ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）を推進することにより、子どもたちが持続可能な社会の創り手として成長することや、GIGAスクール構想のもと急速に進んだICTの活用により、子どもたちの特性・環境等に応じた教育の実現など、学びの環境をより一層充実させることを目指している。さらに、ICTの活用に関しては、「令和5年度小・中学校教育課程改善の手引」においても、「児童自身がICTを『文房具』として自由な発想で活用できるよう組織的、計画的な取組を推進し、『個別最適な学び』『協働的な学び』の一体的な充実を図っていく必要がある」として、端末等の活用については、ステップ1（積極的に活用）ステップ2（効果的に活用）から、ステップ3（主体的に活用）までの深化を示している。

昨年度まで、空知教育センターでは、「『確かな学力』の育成を図る学習指導の在り方～『個』を生かす『協働的な学び』を取り入れた授業改善～」のテーマのもと、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図った、主体的・対話的で深い学びの視点からの学習指導の在り方を明らかにすることを旨とし、研究を進めてきた。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関わっては、学び合いや教え合いによる学習効果や、そのことによる児童・生徒の意欲の向上、また、問題や方法の選択がそれぞれの学習意欲につながることを成果として見出すことができた。さらに、そのための意図的なICTの活用では、視覚的なわかりやすさが思考や説明の不足を補うことや、画面共有から友達の良さや自分の改善点・修正点に気づけることなども見取ることができた。また、反面、個別最適な学びと協働的な学びを取り入れるバランスや組み合わせの難しさ、ICTの効果的な活用場面や活用範囲の適切な判断の困難さなど、今後の課題も明らかにすることができた。

これらのことから、空知教育センターでは、研究主題を「『確かな学力』の育成を図る学習指導の

在り方～ICT を効果的に活用した『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実～と設定し、今日的な教育課題の解明に寄与するとともに、その成果を管内に還元することを目標に2カ年計画の研究を推進していく。効果的な ICT の活用を通じた、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図った主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を通して、「確かな学力」の育成を図る学習指導の在り方を明らかとすることを旨とする。

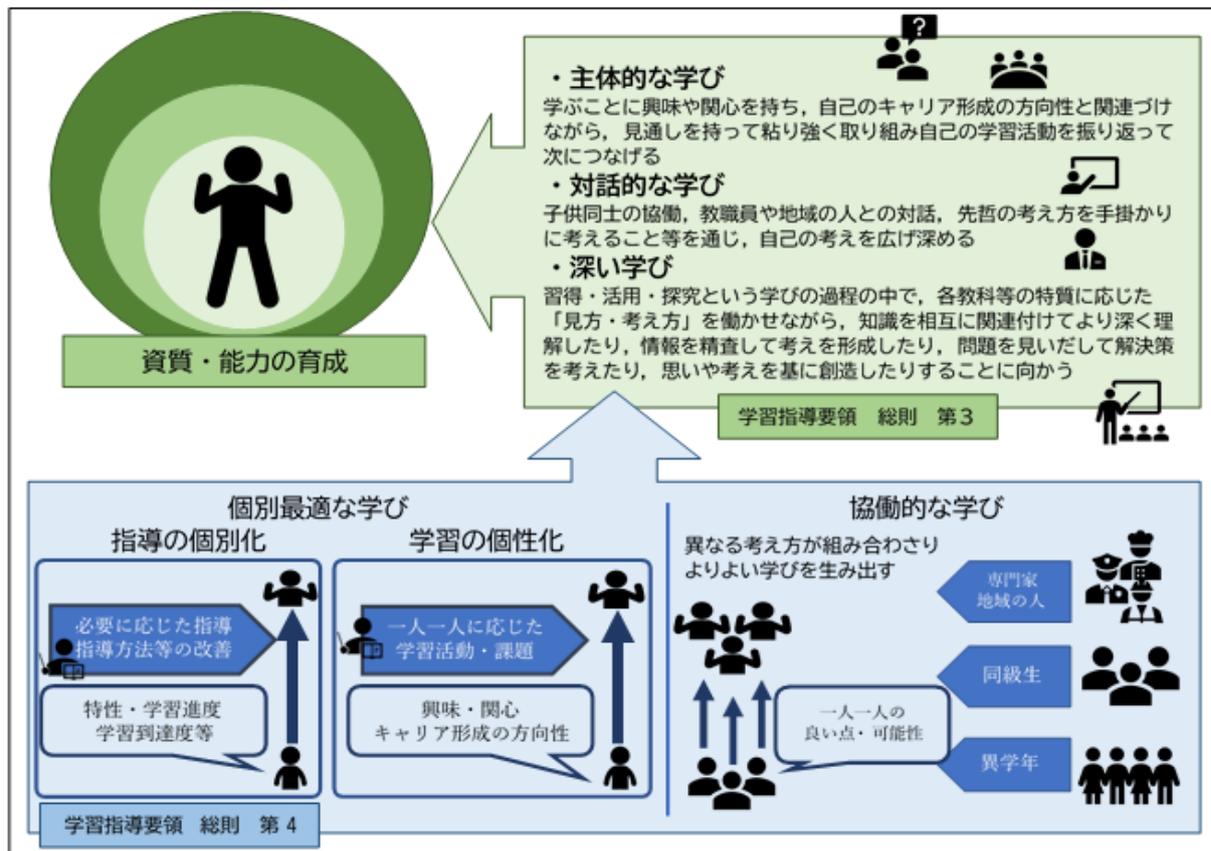
### 3 研究の目的

- (1) 主体的・対話的で深い学びの視点から、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業や学習指導の在り方を明らかにすること。
- (2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるための ICT の効果的活用方法について明らかにすること。

### 4 研究仮説

- (1) 授業において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の場面を一体的に充実させることで、主体的・対話的で深い学びとなり、確かな学力の育成につなげることができる。
- (2) ICT を効果的に活用することにより、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることができる。

【研究仮説に関わるイメージ図】



「教育課程部会における審議のまとめ」に基づき空知教育センターが作成したイメージ図

## 5 研究の視点

### (1) 【視点①】 研究仮説（1）に関わって

- ・授業において「個別最適な学び」と「協働的な学び」が効果的に取り入れられていたか。
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が図られていたか。

### (2) 【視点②】 研究仮説（2）に関わって

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるため、ICT が効果的に活用されていたか。

## 6 研究計画

### (1) 令和6年度（2か年計画1年次目）の重点

- ①「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業や学習方法の在り方の検証。
- ②「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるためのICTの効果的活用方法の検証。

### (2) 教育研究推進協議会の発足に当たって

#### ①教育研究推進協議会の構成員

所属学校の推薦を受けた空知管内教員4名（小・中学校各2名）、空知教育センター所員4名、計8名体制を基本とする。

#### ②教育研究推進協議会推進日程について

- ・年10回程度の開催。
- ・理論研修や検証授業を中心として、研究目的の遂行や研究仮説の検証を行う。

### 【参考文献】

- ・平成29年告示 学習指導要領総則 中学校
- ・平成29年告示 学習指導要領総則 小学校
- ・「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～ 答申
- ・学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（令和3年3月版）文部科学省初等中等教育局教育課程課
- ・教育課程部会における審議のまとめ 令和3年1月25日 中央教育審議会 初等中等教育分科会教育課程部会
- ・教育振興基本計画 令和5年6月16日（第4期：令和5年度～令和9年）
- ・北海道教育推進計画（2023年度～2027年度）
- ・令和5年度小・中学校教育課程改善の手引き

【研究主題】

# 「確かな学力」の育成を図る学習指導の在り方

～ICT を効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実～

【研究の目的】

- (1) 主体的・対話的で深い学びの視点から、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業や学習指導の在り方を明らかにすること。
- (2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるための ICT の効果的活用方法について明らかにすること。

【研究仮説】

- (1) 授業において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の場면을一体的に充実させることで、主体的・対話的で深い学びとなり、確かな学力の育成につなげることができる。
- (2) ICT を効果的に活用することにより、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることができる。

【視点①】 学びの過程に関わる取組

- ・授業において「個別最適な学び」と「協働的な学び」が効果的に取り入れられていたか。
- ・解決方法や各種ソフトなどを目的に応じて選択、活用できていたか。

【視点②】 ICT 等の活用に関わる取組

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるため、ICT が効果的に活用されていたか。

【教育研究推進協議会】

- ・理論研修
- ・各種研修講座参加
- ・研修成果のまとめ・発信

【検証授業】

- ・指導案検討
- ・授業公開
- ・授業反省

【派遣事業】

- ・道内外教育研究大会等への派遣